

ハモグリバエ B 系統にご注意ください



現在、秋冬ネギの圃場において白色に葉が枯れる症状が発生しています。**一見すると疫病のような症状**にも見えますが、従来のハモグリバエとは異なる系統の、**ハモグリバエB系統**(以下B系統)による被害圃場も確認されています。B系統は1葉につく幼虫数が多く、食害が旺盛なため数日で葉が白化し、被害が大きい場合は生育が停止、減収となります。発生は7月～9月が多く、気温の低下とともに一旦は収束しますが、蛹で地中に越冬するため、次年度も対策が必要となります。
葉が急に白く枯れ始めたら要注意です。B系統の被害であるか判断が付かない場合は、薬剤散布前にJA又は農業事務所へご連絡下さい。



一見すると疫病のような白色の枯れ上がりだが...



葉の内部には多数の幼虫があり、2日程で1葉の半分ほどを食害してしまいます(1葉で4～5匹以上いればB系統の可能性有)
 ※成虫含め肉眼での識別は困難です。



従来のタイプは食害痕が点状又は線状になるのが特徴



B系統は1枚の葉につく幼虫数が多く、**食害痕が融合し、葉全体が白化したようになる**

ハモグリバエに登録のある薬剤(抜粋)※系統別に色分け

薬剤	希釈倍数	収穫前日数	使用回数	使用方法	効果
アグロスリン乳剤	2000倍	7日前	5回	散布	速・残
アフーム乳剤	1000倍	7日前	3回	散布	速
カスケード乳剤	4000倍	14日前	3回	散布	残
ダントツ水溶剤	2000～4000倍	3日前	4回	散布	残・浸
ダントツ粒剤	3～6kg	3日前		株元散布	残・浸
ディアナSC	2500～5000倍	前日	2回	散布	速・残
ベネビアOD	2000倍	前日	3回	散布	速・残・浸
リーガード顆粒水和剤	1500倍	7日前	2回	散布	速・浸

※効果;速効性、残効性、浸透移行性 ※使用前にラベルを確認して下さい

※幼虫は葉の内側にいるため、浸透移行性のある薬剤や粒剤を上手く使用しましょう。産卵前の成虫密度を下げるには速効性の薬剤が効果的です。